

知ってほしい！ いちはら福祉ネットのこと

中核地域生活支援センターいちはら福祉ネット
所長兼地域総合コーディネーター 大戸優子

本日本話すること

- いちはら福祉ネットってどんなところ？
- 相談の現場から見える「地域で起きていること」
- 中核地域生活支援センターの役割

1. いちはら福祉ネットってどんなところ？

- 「中核」とか「福祉ネット」と呼ばれていますが、正確には「**中核地域生活支援センター いちはら福祉ネット**」と言います
- 事務所は、東国分寺台（市役所通り沿い）にあります。



1. いちはら福祉ネットってどんなところ？

- **千葉県の委託事業**です。全国でも千葉県にしかありません。
根拠法はなく「千葉県地域福祉支援計画」に基づく設置です。
- 社会福祉法人ききょう会は、平成18年から受託しています。
- **職員は5名**です。

所長兼地域総合コーディネーター	1名
コーディネーター	2名
サブコーディネーター	1名
事務員	1名

(事務所にはもう1人、県の別事業の障害者グループホーム等支援ワーカー1名が配置されています)

1. いちはら福祉ネットってどんなところ？

中核地域生活支援センターとは？

千葉県が定める要綱にもとづき平成16年10月に開設された相談支援事業です。13の健康福祉圏域に1か所ずつ設置され、公募・選考された民間の法人が県から委託を受け、運営にあたっています。具体的な事業として、以下の4つが定められています。

1 包括的相談支援事業

制度の狭間や複合的な課題、新たな課題により生活不安を抱えている方等を中心に、関係機関とともに、広域的、高度な専門性を持った寄り添い支援を行う。

3 市町村等バックアップ事業

市町村や各相談支援機関が相談事例に対応するにあたって、市町村等からの求めに応じて、専門的かつ多面的な視点に立った助言等の支援を行う。

2 地域総合コーディネート事業

福祉・医療・司法・教育等の各分野の支援者や支援機関等を調整するとともに、互いのネットワークの強化を図る。また個別支援における課題を地域の課題として取り上げ、関係機関と問題共有を図り、新たなサービスや社会資源の創出を促進する。

4 権利擁護事業

本人や家族が認識していない権利侵害等も含め、積極的な把握と対応に努める。

1. いちはら福祉ネットってどんなところ？

- 中核センターの相談の傾向

- ①24時間365日体制（土日・祝日・夜間も対応）
- ②対象者横断的（対象・困りごとの限定をしない）
- ③ワンストップ（相談を一元的に受ける）
- ④アウトリーチ（訪問や同行による相談支援）
- ⑤代弁者機能（相談者の権利擁護）
- ⑥必要に応じて直接的な生活支援を実施
- ⑦潜在的ニーズの掘り起こし（世帯全体への介入）
- ⑧問題解決の軌道に乗るまで支援（他機関との協働）

2. 相談の現場から見える「地域で起きていること」

● 相談件数

- 新規相談件数(実数) 年間 **324件** [前年比 9件/月平均 27件]
- 支援実施延べ件数 年間 **7439件** [前年比-1494件/月平均619件]

高齢者	421件 / 5.6%
障害者	3205件 / 43.1%
児童	840件 / 11.3%
その他	2973件 / 40.0%

0時～ 6時	28件
6時～ 9時	121件
9時～17時	6245件
17時～21時	957件
21時～ 0時	88件

2. 相談の現場から見える「地域で起きていること」

- 相談者の特徴
 - ①複合的な課題を抱える家庭
 - ②キーパーソンが身近にいない人たち（孤立）
 - ③制度の対象になりにくい人たち
 - ④制度をうまく活用できない人たち
 - ⑤虐待や権利侵害を受けている人たち
 - ⑥触法・累犯の人たち
 - ⑦医療依存度の高い人たち
 - ⑧ひきこもりの人たち
 - ⑨外国籍の人たち

2. 相談の現場から見える「地域で起きていること」

事例

3. 中核地域生活支援センターの役割

関係機関から

「私たち、〇〇については、よくわからないので中核さんお願いします」

「私たち、〇〇については、やったことないので中核さんお願いします」

「私たち、〇〇については、できないので中核さんお願いします」

「夜間や土日は中核さんに対応してもらえますよね」

「本人を□□まで連れてきてほしいんですけど」

といったご連絡をよくいただきます。

中核の役割とはいったい何でしょうか？

3. 中核地域生活支援センターの役割

今年度新たに加わった役割があります。

重層的支援体制構築のための市町村支援事業

市町村における重層的支援体制の構築に向け、基礎研修や複合的な支援が必要な事例の検討、体制構築に向けた課題整理等を行う



それぞれの機関の可能性を発揮して対応範囲を広げ、

市原圏域(市原市)全体の底上げをしていきましょう